

笹川記念保健協力財団 奨学金支援  
助成番号：2016-

(西暦) 2017年 3月 27日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団

理事長 喜 多 悦 子 殿

## 2016年度奨学金支援

## 完 了 報 告 書

標記について、下記の通り完了報告書を添付し提出いたします。

### 記

所属機関・職名

東京大学医学系研究科健康科学看護学専攻がん専門看護師コース・大学院生

氏名 平野勇太

2016年4月～2017年3月において、以下の内容を修学したため報告する。

東京大学 医学系研究科 健康科学看護学専攻 修士課程における修士論文として「化学療法中の大腸がん患者の身体活動量と身体活動量に関連する要因の探索」の作成に注力した。本年度5月より倫理申請の準備を行い、その後、東京大学医学部の倫理委員会へ申請を行った。6月に研究の許可を得た上で、東京大学附属病院にて質問紙調査を行った。調査は11月末日まで継続して行い、全77名の対象者に対して調査を行った。12月より解析を行い、指導教官から指導をいただき修士論文の執筆を行なった。修士論文は1月6日の締め切りに間に合うよう提出を行い、審査を経て学位論文としての認定を受けた。論文提出後、最終試験となる論文発表会に参加し、試験に合格した。

修士論文提出後も研究調査は継続している。現在は東京大学医学部附属病院で調査を継続し、その他の施設でも調査を行うための倫理申請の結果を待っているところである。

がん専門看護師コースとして、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「がん治療のブレイクスルーを担う医療人育成」がん専門看護師コースにおける授業・研修会に参加し、必要単位を取得することで修了した。

その他、上記のがん専門看護師コースとしての取り組みだけではなく、大学院全学共通で統合的な視野と、独創的な発想を備え、産学官の各方面でグローバルに活躍するリーダーを育成する大学院教育プログラム支援事業の1つである博士課程リーディングプログラム「ソーシャルICTグローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム」(以下、GCL)にも所属し、他分野の学生との交流とプロジェクトの企画・運営などの活動を行った。GCLにおいて注力した活動の1つとして、発展途上国であるネパールにおいて医療情報を管理・利用するためのソフトウェア開発「ASHA Nepal Project」がある。これまで実際の医療現場で電子カルテを用いたことのある経験から、医療において収集する必要のある情報の選別と医療者が使用しやすいインターフェイスについての検討をエンジニアとともに行うことをプロジェクト内の主な役割としていた。

2016年度奨学金支援として公益財団法人 笹川記念保健協力財団より支援をいただいたことにより、上記の通り就学に専念し修士論文の執筆とがん専門看護師コースの実習・必要単位の取得に注力することができた。今後がん専門看護師を目指し、一層の研鑽を積んでいきたい。ご支援をいただき、心より感謝申し上げます。